

〔 特 集 〕

最近のアレルギー診療を いったん整理してみました！



アレルギー疾患の診療は、この 20 年で大きく変わりました。舌下免疫療法や生物学的製剤といった新しい治療法が使えるようになり、アトピー性皮膚炎に対する、新しい塗り薬や飲み薬も次々と登場しています。また、アレルギー検査の精度が向上し、「どのくらい症状が出やすいか」を以前より具体的に予測できるようになってきました。さらに、乳児期からのスキンケアや食事の工夫によって、アレルギーの発症を予防できる可能性についても、多くの研究成果が蓄積されています。

一方で、アレルギー疾患対策基本法の制定や拠点病院の整備、各種ガイドラインやアレルギーポータルサイトの公開、アレルギーエドゥケーターやアレルギー疾患療養指導士といった専門職の育成など、社会全体で子どもたちと家族を支えるしくみづくりも進んできました。

本特集では、「この 20 年でアレルギー診療がどのように変わってきたのか」を、各分野の第一線で診療に携わってきた専門家たちに振り返っていただきました。そして、その変化をこれからの 10 年の診療や支援にどう活かしていくかを考えるきっかけになればと思っています。子どもたちと家族に日々寄り添う医療・教育・福祉関係者の皆さまが、新しい時代のアレルギー診療の考え方や実践を共有し、これからのよりよい医療と支援をともにつくっていく一助となれば幸いです。

(神戸市立医療センター中央市民病院小児科／岡藤郁夫)

